

## 自然エネルギー市民委員会で検討すべき論点

### 1. 制度選択に関する論点

- (1) 欧州の各制度の得失とその背景を正確に見極める必要がある
- (2) 日本の自然エネルギーの実情にあった制度選択
- (3) どのような要素・視点を重視するか
- (4) 社会的な合意や支持が高い制度はどれか

(参考 政府小委員会で挙げられている視点 )

- ・ 対策効果の確実性
- ・ 電気事業者による電源選択の自由度
- ・ コスト削減インセンティブ
- ・ エネルギー市場における競争関係への影響
- ・ 国の財政負担
- ・ 費用負担の公平性
- ・ エネルギー市場の自由化との整合性確保と市場機能の活用
- ・ 最終的負担者となる国民の理解増進
- ・ 費用対効果
- ・ 供給実現性
- ・ 新エネ導入目標との関係
- ・ エネルギー源毎の導入熟度
- ・ 民間の自主的取組（余剰電力購入メニュー、グリーン電力制度等）との関係

### 2. 制度設計に関する論点 RPS を中心として

- (1) 制度が適正に機能するか 市場の流動性、歪みなど
  - ・ 義務の対象（発電者、系統管理者、供給者、需要家）
  - ・ 不確定性 / 変動性
  - ・ 電源別の競争力（PV など）
- (2) 望ましい自然エネルギーが普及するか
  - ・ RE の定義 / 対象（特に廃棄物、水力）
  - ・ 目標値（電源別、全体、誰がどのように決めるか）
  - ・ 電源別の競争力（PV など）
- (3) 制度は適切にデザインされるか
  - ・ 費用負担は公正か 新たな費用負担と既存の負担構造
  - ・ 「ペナルティ」
  - ・ 市場の自主的措置（Green Power）との整合や統合
  - ・ 電力市場自由化との整合
- (4) 現行の「制度」から問題なく移行可能か